2Ha-2　女子学生の高齢時に対する服装観について

○伊賀正恵　尾崎正弘　（名古屋女子大短大）

目的　高齢社会に即応し、若年者、中年者、高年者それぞれの視点からみた高齢者の服装に関する研究は昨年の大会までに様々なテーマで発表されている。これらの発表では高年女性にふさわしい服装のイメージや、評価の高い色などは各年代で異なる傾向にあるようであった。そこで、本研究は女子学生の服装観に着目し、彼女らの現在の服装観が自らイメージする高齢時の服装観にどのように関わるか検討を試みることにした。

方法　調査は質問紙法により、大学・短大に在籍する 390 名の女子学生を対象に 1998 年 9 月から 10 月にかけて 2 回実施した。1 回目の質問紙の内容は、高齢者像、高齢者との同居経験などを問う項目に加え、現在の服装や好みのシルエットを含めたファッションに関する項目を扱った。そして、2 回目は自らの高齢時を想定しながら、服装に関する同項目を回答してもらうため、初回の調査が影響を与えないように 2 週間後に実施した。回答方法は選択肢と記述を併用した。調査結果は単純集計とクロス集計でまとめ、χ^2検定、残差分析により検定した。

結果　女子学生の現在の服装観と高齢時に対する服装のイメージについては相違がみられた。好みの服装の色については学生は黒、グレー、青の順で答え、高齢時にはグレー、黒、茶系、ベージュと答えていた。これらの順位は前後しているが、いずれも無彩色が優位となる傾向が認められた。このような色選びには同居経験の有無も要因の 1 つと考えられる。また、ファッションに関してシルエットを重視すると答えた者と高齢時にそれを重視しようとする者が好むワンピースのラインには相違があった。